

# 既婚看護師の仕事と家庭生活の両立における 必要なサポートとエンパワーメント

村田梢\*佐々木美佳\*\*妹尾衣理\*\*\*正清涼子\*\*\*\*  
三世川史穂\*\*\*\*\*齋藤美和\*\*\*\*\*森木妙子\*\*\*\*\*

\*大阪大学医学部附属病院 〒565-0871大阪府吹田市山田丘2番15号  
\*\*独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 〒791-0280愛媛県松山市南梅本町甲160  
\*\*\*神戸市立医療センター中央市民病院 〒650-0046神戸市中央区港島中町4丁目6番地  
\*\*\*\*医療法人萌生会国定病院 〒719-0303岡山県浅口郡里庄町浜中93-141  
\*\*\*\*\*財団法人神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター 〒651-2273神戸市西区糀台  
5-7-1  
\*\*\*\*\*高知大学医学部看護学科 〒783-8505高知県南国市岡豊町小蓮

Support and the empowerment that coexistence of work and family  
life of a married nurse is necessary for

Kozue MURATA      Mika SASAKI      Eri SENO      Ryoko MASAKIYO  
Siho MISEGAWA      Miwa SAITO      Taeko MORIKI

\*Osaka University Hospital 2-15, Yamadaoka, Suita - City, Osaka, (〒565-0871)  
\*\* National Hospital Organization Shikoku Cancer Center 160, kou, Minami Umemoto  
- cho, Matuyama - City, Ehime, (〒791-0280)  
\*\*\* Kobe City Medical Center General Hospital 4-6, Naka-cho, Minatojima, Tyuo-ku,  
kobe - City (〒650-0046)  
\*\*\*\*Kunisada Hospital 93-141, Hamanaka, Satosyo-cho, Asaguti-gun, Okayama (〒719-0303)  
\*\*\*\*\*Nishi Kobe Medical Center 5-7-1, kojidai, Nisi - ku, Kobe - City (〒651-2273)  
\*\*\*\*\*Nursing Course, Kochi Medical School, Kochi University Kohasu, Oko-cho,  
Nankoku-City, Kochi, (〒783-8505)

## 要約

本研究の目的は、既婚看護師をとりまく身近なサポートを知り、仕事と家庭生活を両立していくプロセスにおいて必要なサポートを明らかにすることと仕事と家庭生活を両立していく過程で行なっているエンパワーメントの内容を明らかにすることの2つである。研究方法は、仕事と家庭生活を両立している女性看護師10名にインタビューを実施し、内容分析を行った。本研究においてエンパワーメントとは「個人が潜在的に持っている力を効果的に用いること」と定義する。分析の結果、1.「サポート」のカテゴリーは【得られた物理的サポート】と【得られた精神的サポート】の2つに分類された。2.「エンパワーメント」は、【両立に悩む気持ちの安定を図る】【仕事への思いを秘めて看護師である自分を実感している】【自発的調整を実行する】【要所を押さえて子供と向き合う】の4つに分類された。

## Abstract

I know imminent support to surround a married nurse. And I clarify necessary support in the process that is compatible with work in family life. I clarify content of empowerment performing work and family life by a compatible process. There are these for the purpose of this study. I obtained its consent to ten woman nurses who were compatible with work in family life. I had an interview and performed a content analysis. In this study, empowerment defines it as using the power that an individual has potentially effectively. As a result of analysis, the category of "support" was classified to [provided physical support] and [provided mental support].

"The empowerment" was classified in 4 of [I plan stability of a feeling to be troubled with coexistence] [I hide thought to work and realize herself who is a nurse] [I carry out voluntary adjustment] [I suppress a point and face a child].

キーワード：サポート，エンパワーメント

The Key Word：Support, Empowerment

## I. 研究の背景

看護師は自分のライフプランの中で仕事をしながら、結婚・出産・育児・親の介護などを経験する事がある。看護師は、勤務時間が不規則な仕事である。その為、結婚をしてから仕事を続けるとなると、1人で家事をこなすのは困難であり、出産後、家事や育児と仕事の両立が可能であるかという不安を抱えている。このような理由から結婚後、離職してしまう看護師も多い。堀<sup>1)</sup>によると看護師のキャリア発達には、その発達を支える家族や職場の支援がある事が明らかにされている。そこで結婚後も看護師として働くためにはどのようなサポートが必要なのかを知り、仕事と家庭生活の両立していく過程で行なっているエンパワーメントの内容を明らかにした。

## II. 研究目的

1. 既婚看護師をとりまく身近なサポートを知り、仕事と家庭生活を両立していくプロセスにおいて必要なサポートを明らかにする。
2. 仕事と家庭生活を両立していく過程で行なっているエンパワーメントの内容を明らかにする。

## III. 用語の定義

1. 家庭生活：1つの家に生活する家族が日常的な暮らしを営む事
2. サポート：個人を取りまく周囲の支援および協力
3. エンパワーメントとは「個人が潜在的に持っている力を効果的に用いること」と定義。本研究におけるエンパワーメントとは、看護師が結婚後に仕事と家庭生活の両立に向かって個人が潜在的に持っている力を効果的に用いることである。またエンパワーメントの内容とは個人が潜在的に持っている力及びその用い方である。

## IV. 研究方法

対象は、結婚経験があり、高校生以上の子どもを持ち、仕事と家庭生活を両立している女性看護師10名である。データ収集は半構成的インタビューガイド

を用いて面接を行い、同意を得てテープに録音した。データ分析は、逐語記録を熟読し、意味内容ごとに抽出していき、コード化・カテゴリー化を進め、内容分析を行った。これらはすべて研究者自身で繰り返し検討を行い信頼性・妥当性の確保に努めた。

## V. 倫理的配慮

施設の看護責任者である看護部長と教育担当看護師長に研究計画書を提示して研究の趣旨を説明し、了解を得る。研究参加の対象者で協力していただける看護師及び看護師長の方を紹介していただき、直接対象者にお会いし、以下の点を含む同意書に基づき口頭で説明し文書で同意を得た。

- 1)録音したテープや逐語記録、属性に関する質問用紙等のデータは研究者以外では共有しない。
- 2)研究の公表において、匿名を用いて個人が特定されないように配慮する。
- 3)対象者は、面接への参加の取り止めをいつでも自由にできる。
- 4)研究終了後、直ちにテープや逐語記録、属性に関するデータを破棄する。

## VI. 結 果

### 1. 必要なサポートについて

分析の結果、「サポート」のカテゴリーは【得られた物理的サポート】と【得られた精神的サポート】の2つに分類された。【得られた物理的サポート】とは、実際に得られた家事や育児などに対する周囲のサポートを意味しており、「夫の家事・育児への協力」「両親の育児への協力」「職場での勤務調整」「子供の家事へのサポート」「施設の育児へのサポート」「近所の人への育児へのサポート」「家族の自立」の7個のサブカテゴリーが抽出された（表1）。【得られた精神的サポート】とは、仕事と家庭生活の両立をはかる上で、不安や心理的葛藤を軽減させる家族や患者などからのサポートを意味しており、「存在」「悩み相談」「応援」「理解と協力」「パワーをもらうこと」「周囲の人の健康」の6個のサブカテゴリーが抽出された（表2）。

表1【得られた物理的サポート】

カテゴリー	中カテゴリー
夫の家事・育児への協力	● 夫は時間の許す時に家事を協力してくれた
	● 夫が家事(買い物、ごみ捨て)を手伝ってくれる
	● 家事を分担する
	● 夜勤の時は夫が子どもをみてる
	● 夫が保育園の送り迎えをしてくれる

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの夜泣きの時、夫が協力してくれた</li> <li>● 夫が学校行事に参加してくれる</li> </ul>
両親の育児への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の両親が保育園の送り迎えをしてくれた</li> <li>● 子どもが病気の時は両親がみてくれた</li> <li>● 子どもの休みが長い時は両親がみてくれた</li> <li>● 両親が学校行事に行ってくれた</li> <li>● 夜勤の時は母親が来てくれた</li> <li>● 姑の同居により、サポートが増えた(家事・子どもの迎えなど)</li> </ul>
職場での勤務調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職場での理解があり、勤務希望可能である</li> <li>● 外来での勤務調整(決まった時間に帰る・休ませてもらう)</li> <li>● 職場で仕事調整をして仕事中に子どもの迎えに行く事ができた</li> <li>● 子どもが病気の時職場が都合をつけてくれた</li> <li>● 看護部長が人事異動してくれた</li> <li>● 外来に異動させてもらった</li> <li>● 産後の勤務調整</li> <li>● 研修に参加しやすい</li> </ul>
子どもの家事へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもに家庭内の決め事を守ってもらう</li> <li>● 子どもは自分で洗濯、食事の準備から片付けまでする</li> </ul>
施設の育児へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもを保育所・学童保育・託児所に預ける</li> <li>● 学校から仕事場への連絡による仕事への支障はなかった</li> </ul>
周囲の育児へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所の人子どもを保育園に迎えに行ってくれた</li> <li>● 夜勤の時の叔母の協力</li> </ul>
家族の自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の事は自分でする事が夫の協力</li> <li>● 子どもは大きくなると自分の事は自分でできるようにしていた</li> </ul>

表2 【得られた精神的サポート】

大カテゴリー	中カテゴリー
存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夫の存在</li> <li>● 子どもの存在</li> <li>● 母親の存在</li> <li>● 家族の存在</li> </ul>
悩み相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族や同僚は愚痴を黙って聞いてくれた</li> <li>● 同僚や育児経験者に育児の事や悩みを話す</li> <li>● 母親は相談相手になり心身の支えとなる</li> <li>● 子どもとお互いに話をした</li> </ul>
応援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夫が仕事をする事を勧めてくれる</li> <li>● 子どもが仕事をする事を応援してくれる</li> <li>● 親戚が仕事を続ける事を勧めてくれる</li> <li>● 患者・患者の家族の気遣いと励まし</li> </ul>
理解と協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夫が文句を言わず理解し家族を大切にする</li> <li>● 子どもは無理を言わず、働く事に理解を示してくれる</li> <li>● 看護師長の気遣いとアドバイス</li> <li>● 周囲の両立への理解と支援</li> <li>● 実の母親が働く事に理解</li> <li>● 職場の理解</li> </ul>
パワーをもらうこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者の前向きな姿勢から人間としてのパワーをもらう</li> <li>● 子ども達が頑張ってくれた事</li> </ul>
周囲の人の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 周囲の人の健康により続ける事ができた</li> </ul>

## 2. エンパワーメントについて

分析により、「エンパワーメント」は、【両立に悩む気持ちの安定を図る】【仕

事への思いを秘めて看護師である自分を実感している】【自発的調整を実行する】【要所を押さえて子供と向き合う】の4つに分類された。

【両立に悩む気持ちの安定を図る】では、「性格的に自然体を保つ」「人の意見を参考にする」「悩みへの対処」「割り切る」が抽出された(表3)。「仕事への思いを秘めて看護師である自分を実感している」では、「看護師を選んだ動機を実感」「仕事へのやりがいを実感」「仕事の継続を肯定的に捉える」「専門性への関心」が抽出された(表4)。「自発的調整を実行する」では、「社会的な努力」「勤務調整」「子供の病気・イベント時の工夫」「協力者の積極的獲得」が抽出された(表5)。「要所を押さえて子供と向き合う」では、「自分なりに育児の方向づけを行なう」「学校行事への参加は臨機応変に対応する」「病気の付き添いをする」が抽出された(表6)。

表3 【両立に悩む気持ちの安定を図る】

大カテゴリー	中カテゴリー
性格的に自然体を保つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 周りからの励ましを素直に受け入れる</li> <li>● 辞めたいと思ってもすぐに辞めず、考える</li> </ul>
人の意見を参考にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 言う通りにしたらいい事があるのではないかという考え方</li> <li>● 落ち込んだ時、病気をもちながらも前向きな人を見ると、自分は元気なのに小さい人間だと受け止める</li> </ul>
悩みへの対処	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 悩みは人に話し、ストレスを溜めない</li> <li>● 同僚に育児について相談した</li> <li>● 辞めようと思った時に先輩、師長に聞いてもらいアドバイスを求めた</li> <li>● 家族に悩みを相談する</li> <li>● 趣味の時間を持ち、気分転換する</li> </ul>
割り切る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 看護師という仕事と結婚や子どもの事は別問題</li> <li>● 子どもが小さい時は子ども中心の生活になるのは仕方がない</li> <li>● 仕事より家庭中心で考える</li> <li>● 夫になるべく頼らないようにした</li> <li>● 夫に協力を無理強いしなかった</li> <li>● 仕事は最低限の事だけする</li> <li>● 辞めたいと思う時は趣味の時間を持ち、気持ちを変える</li> <li>● 悩みは家庭に持ち込まない</li> </ul>

表4 【仕事への思いを秘めて看護師である自分を実感している】

大カテゴリー	中カテゴリー
看護師を選んだ動機を実感	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性として資格を持ち長く勤める事ができる仕事は看護師だと思った</li> <li>● 自分が看護師だと、家族が病気になっても安心</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間にとって一番大切な健康や命に携われることで生きがいになる</li> <li>● 看護師の仕事は毎日新鮮でやりがいがある</li> <li>● 人との出会いがある</li> </ul>

仕事へのやりがいを実感	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者の喜びと悲しみを共有できる</li> <li>● 自分の関わりの成果を実感できる喜び</li> <li>● 仕事が自分に合っていて誇りが持てる</li> <li>● 看護師でない自分は好きではない</li> </ul>
仕事の継続を肯定的に捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目指す看護師像がある</li> <li>● 看護師という仕事にプライドを持っている</li> <li>● 辞めると後悔するという思い</li> <li>● 経済面の為に継続する</li> <li>● 家族がいるから仕事を続けられる</li> <li>● 育児だけではなく仕事があったからストレスが緩和された</li> <li>● 自分には看護師しかない、</li> <li>● 看護師を続けたから今の自分がある</li> <li>● 周りが仕事を続ける中で家庭に入るのは嫌・不満足</li> </ul>
専門性への関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修や会議に参加していこうとする姿勢</li> <li>● 専門性の追求は働き続ける事</li> <li>● 子どもが大きくなってから勉強する</li> </ul>

表5 【自発的調整を実行する】

大カテゴリー	中カテゴリー
社会的な努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両立できるように自ら学童保育を作った</li> </ul>
勤務調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの行事など必要な時に勤務希望を出す</li> <li>● 夜勤などで勤務調整している</li> <li>● 病棟勤務以外や外来への職場の異動</li> <li>● 育児休暇の制度の利用</li> </ul>
子どもの病気イベント時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前の行事、イベントの把握</li> <li>● 誕生日は、子どもが大きくなると、話をして土曜や日曜にした</li> <li>● 子どもが病気の時は仕事中でも一時帰宅した</li> <li>● 子どもが病気の時は病院に連れて行く</li> <li>● 夫婦で話し合ってどちらかが子どもをみる</li> <li>● 参観日は選んで行くようにした</li> </ul>
協力者の積極的獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもが病気の時は両親や姑、叔母に子どもを頼む</li> <li>● 子どもを学童保育や託児所に預ける</li> <li>● 職場の人に自分の家族の事をわかってもらう為、家に何度か呼んだ</li> <li>● 切り替える</li> <li>● 子どもに家庭内の決め事を守ってもらう事で協力をしてもらう</li> </ul>

表6 【要所を押さえて子供と向き合う】

大カテゴリー	中カテゴリー
自分なりに育児の方向づけを行なう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育ては手を抜かない</li> <li>● 小さい時できなかった分子どもと話をして向き合う</li> <li>● 子育てでは情緒面にも関わる</li> <li>● 母親としてやれるだけはやる</li> <li>● 甘やかさない</li> </ul>

	● 弁当は作る
	● 子どもの希望で叶えられない事ははっきり伝える
	● 夜勤はしない
	● 子どもが小さいうちは仕事を離れて関わる事が理想
学校行事への参加は 臨機応変に対応する	● 普段遊びに連れて行く事ができない分学校行事に欠かさず参加
	● 学校行事はできるだけ参加する
	● 学校行事は子どもの様子を見ながら選んで参加する
	● 夫婦で協力して参加できるようにする
	● 進路相談は母親が行く
病気の付き添いをする	● 子どもが病気の時は夫婦どちらかが休む

## Ⅶ. 考 察

### 1. 必要なサポートについて

本研究から、対象者の多くが周囲からサポートを得ている事が明らかになった。本間、中川<sup>2)</sup>は『幼い子どもを抱えている看護職においては家庭と仕事の両立や葛藤を緩和する為の支援が必要とされる事が示唆された』と述べているが、具体的に必要なサポートの内容は明らかになっていなかった。

具体的な物理的サポート内容として、〈夫と家事を分担〉、〈夜勤の時は夫が子どもをみてる〉、〈夫・両親が学校行事に参加してくれた〉、〈子どもが病気の時は両親がみってくれた〉、〈子どもに家庭内の決め事を守ってもらう〉、〈子どもは自分達で食事の準備から片付けまでする〉、〈学童保育に子どもを預ける〉、〈近所の人子どもを保育園に迎えに行ってくれた〉、〈家族は自分の事は自分でする〉などが明らかになった。つまり夫や両親・子供から、そして職場・近所の人など様々な人のサポートが交差して仕事と家庭生活のバランスを保っていると考えられる。

また、鶴田<sup>3)</sup>は、『結婚については今も結婚退職の願望は根強いが、結婚しても生き生きと仕事を続けているナースもおり、それは本人の満足感を満たす職場の条件・家庭での支援が大きく影響している』と述べているが、本人の満足感を満たす職場の条件は具体的に明らかになっていなかった。本研究では、具体的に既婚看護師の満足感を満たす職場の条件として、〈子どもが病気の時職場が都合をつけてくれた〉、〈自分の家庭の都合で勤務形態の調節をさせてもらう〉などが明らかになった。これらの事により、既婚看護師が仕事と家庭生活を両立していく為の必要不可欠なサポートを職場の同僚や管理者、さらに職場のシステムを活用する事で離職せず、仕事と家庭生活を両立していく事ができるという示唆も得られた。

また本研究で、家族や患者など様々な立場の方から、励まされ、悩みを聞いてもらうなどして精神的サポートを受けている事が明らかになった。具体的には夫や子どもや母親の存在自体が精神的なサポートとなっているという事や、子ども達が頑張ってくれた事が精神的サポートである事、患者やその家族の病気に対する前向きな姿勢から精神的サポートを受けているという事、また家族が健康でなければ家庭内での役割が変化し、仕事が続けられなくなっていたかもしれない為家族全員の健康もサポートであるという考え方などであった。つまりアドバイスや相談にのるという具体的な精神的サポートだけでなく、家族の存在・患者の存在など目に見えない精神的サポートも重要であると考えられる。

職場のサポートに関しては、鶴田<sup>3)</sup>は「結婚後も仕事を続ける看護師に対し、本人の満足感を満たす職場の条件・家庭での支援が大きく影響している」と述べている。具体的な職場の条件として、「周囲に自分の立場や大変さを理解してもらっていたので、困った時の勤務交代もわかってくれた」「最初、師長さんに話をすると、日頃の自分の態度から大変な事を感じとり、具体的に聞かず、勤務形態の調整(外来へ異動)をしてくれた」「『子どもが生まれてから休んで、それから続けるかどうか考えれば』と看護師長さんからアドバイスを受けた」などが明らかになった。これらの事により、既婚看護師が仕事と家庭生活を両立していく為の精神的サポートである肯定的フィードバックを患者・家族・職場などから得る事で、離職せず仕事と家庭生活を両立していく事ができるという示唆を得た。

## 2. エンパワーメントについて

- 1) 両立に悩む気持ちの安定を図る為に、人の意見を参考にして考え、また時には気分転換するなど自分一人で悩みを抱え込まないようにすることや、その状況を割り切ることで悩む気持ちと折り合いをつけエンパワーメントしていた。
- 2) 仕事への思いを秘めて看護師である自分を潜在的に実感し、エンパワーメントしている側面では、<育児だけでなく、仕事があったからストレスが緩和された>と仕事と家庭を区別し一線を引いているという面で、逆に自分に仕事があったからそれぞれから来るストレスが緩和されたという考え方も抽出された。また、<周りが仕事を続ける中で家庭にいるのは嫌・不満足>というカテゴリーも抽出され、仕事の世界を持ち、生き生きと働く自分のイメージがある時、自己実現に向けてのエンパワーメントが引き出されるという事が考えられる。



またく専門性の追求は働き続ける事>という考え方が抽出され、専門性の追求にも人それぞれの考え方があり、人生観や価値観に応じて自分なりの方法で仕事のスタイルを築いている事が明らかになった。これらの事から、専門性の追求は、専門看護師や研修への参加を積極的に行う事だけでなく、それぞれの看護に対する目標を持ち、自己実現する為に仕事と家庭生活を両立させていく上でのバランスを考える事が重要であると考えられる。

さらに、<自分には看護師しかない><看護師でない自分は好きではない><看護師を続けたから今の自分がある>というように両立の中で仕事の達成感・充実感を得る為に自らの職業を主体的に引き受ける事で自己実現を目指していく事が示された。これらの事から、仕事をする事で自分を肯定的に捉え、自己実現を目指す事が仕事を継続していく上での力につながっていると考えられる。

対象者は、看護師という仕事を、<人間にとって1番大切な健康に携われる事で生きがいになる><患者の喜びと悲しみを共有できる事である><自分の関わりの成果を実感できる喜びがある><患者が違い毎日新鮮である>と考えていた。これらは、グレック美鈴<sup>4)</sup>が、『看護師として働く中で、様々な人と出会い、その相互行為の中から、看護と看護師である自分を学ぶ。看護が自己の成長に貢献していると感じる事、あるいはクライアントを援助する事の満足感から看護の価値を認識する。さらに仕事上の経験に基づいて自己の看護観を確立する』と述べている事と類似していた。これらの事から、患者との関わりの中で、看護師という仕事に対する自分なりの考えを持ち、自分が患者への援助の中で自分が何を得て、どのように感じているのかに気付く事が重要であると考えられる。さらに、仕事を続けていく上でその気付いた満足感や達成感を自分の力にする事が必要ではないかと考える。さらに、<看護師という仕事にプライドを持っている>という考え方も抽出され、看護師という職業に魅力を感じたり、<誇りを持っている>という事が継続の原動力になるのではないかと考える。

3)【要所を押さえて子供と向き合う】では、対象者の「夜は子どもだけにしない為に夜勤の形態はとっていない」という言葉や、<普段遊びに連れて行く事ができない分、学校行事に欠かさず参加する><子どもが病気の時は夫婦どちらかが休む>などのカテゴリーが抽出された。鶴田<sup>3)</sup>は、『ナース達は厳しい仕事では一様に頑張りつつも、その人生観・価値観は個々人によって違い、悩みつつも自己の仕事スタイルを築いている。そして結婚・出産・育児はハ

ンディとなっても、ナース個々の意欲次第で、むしろ人間形成・自己実現へプラスとなっていく』というキャリア発達の1つのモデルを提唱している。そして自分から【自発的調整を実行し】、自分が目標とする子どもとの関わりを果たす為に勤務調整を行い、協力者を積極的に獲得し生活の工夫を行い、鶴田の述べる『自己の仕事スタイル』の具体的内容が明らかにすることができた。また、本研究で抽出された〈子育ては手を抜かない〉〈子育てでは情緒面にも関わる〉、〈母親としてやれるだけはやる〉などのカテゴリーは、鶴田の述べる『ナース個々の意欲』の具体的内容の1つであると考えられる。

## Ⅷ. 結 論

1. 既婚看護師が仕事と家庭生活を両立していく為に必要なサポートとは、物理面と精神面のサポートであった。そのどちらも必要不可欠なサポートであり、それらを周囲から身近に得ることで職業人としての看護師を社会的に支えていることがわかった。
2. 既婚看護師が仕事と家庭生活を両立していく過程で行なっているエンパワメントとは、仕事への思いを心に抱き、看護師である自分を実感しつつ、要所を押さえて子供と向き合っていた。そこで看護職という自分と母親である自分に誇りを持ち、自発的に周囲の調整を行いながら問題への対処を行い、両立に悩む気持ちの安定を図っていたことがわかった。

## 引用・参考文献

1. 堀 孔美穂：女性看護師における家庭と職業の両立を支える要因に関する考察，神奈川県立看護教育大学看護研究集録，No.28，2003
2. 本間千代子，中川禮子：看護職における家庭と仕事の両立葛藤－看護職と働く一般女性との比較－，日本赤十字武蔵野短期大学紀要，15号，2002
3. 鶴田早苗：ナースの発達と女性のライフサイクル，看護展望，13(12)，1988
4. グレッジ美鈴：看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築，岐阜県立看護大学看護研究，35(3)，2002
5. 鈴木千春，田中可奈子，田中美智子，今井真由美.：当院女性看護師の家事・育児負担と労働条件の実態，鳥取赤十字病院医学雑誌，13巻，2004
6. 谷口洋子：看護師のストレスを考察する，陶生医報，20号，2004
7. 藤内美穂：交代制勤務の看護師の生活時間構造と生活意識および疲労との関連－一般女性と有職者および女性教員との比較－，日本看護研究学会誌

- 27(4), 2004
8. 中 章子：母親の就労と親子関係に関する青年の認知－保育士養成校に通う大学生を対象に－，修士論文，1999
  9. 高橋照子：キャリア論とアイデンティティ論，看護学が取り組む問題．東京慈恵会医科大学医学部
  10. 金子あけみ：看護婦のキャリアコミットメント，インターナショナルナーシングレビュー，21(.2)
  11. 平井さよ子：看護師のキャリア開発と求められる支援－組織と個人の相互作用のなかで－，看護展望，28(8)，2003
  12. 中尾久子：共分散構造分析を用いた労働者の職業性ストレスと生活行動の関連性の検討，臨床環境医学，13(1)，2004
  13. 上野貴子，内藤理英，菅原文子，浅井美智子，一瀬貴子：交替制勤務が看護職者の社会性に及ぼす影響，山梨県立看護大学短期大学部紀要，6(1)，2001
  14. 佐藤昇子，看護職のキャリア発達形成に対する問題とその概念枠組み，インターナショナルナーシングレビュー，21(.2)
  15. 酒井淳子，矢野紀子，羽田野花美，澤田忠幸：30歳代女性看護師の専門職性と心理的well-being－組織コミットメントおよび職業コミットメントのタイプによる検討－，愛媛県立医療技術大学紀要，1(1)，2004
  16. 佐藤夕子，酢屋久美子，原田郁，今野姫子，高田文子：子供を持つ30代の看護婦に対する意識調査，市立秋田総合病院医報，11(1)，2001
  17. 角田 誠：看護管理実践能力養成コース－ワークシェアリング，仕事と家庭を両立・無理なくやりがいを持って働く方法－，ナースデータ，25(8)，2004
  18. 菊池昭江，看護専門職における自立性と職場環境および職務意識との関連．看護研究，32(.2)，1999
  19. 高橋純子：看護職が職業を継続するための要因－人生の転機と労働上の諸条件の関連について－，神奈川県立看護教育大学校，看護教育研究集録，27号，2001

(受理日平成20年1月10日)